

平成29年度第1回大分市公共下水道事業経営評価委員会 会議要旨

日 時：平成29年6月6日（金）13時30分～14時20分

場 所：大分市役所本庁舎地下1階 B15会議室

出席者：委員 川崎晃央、豊田 和成、村松 政幸、小野 ひさえ、岩崎 美紀、須藤 里美
(計6名)

事務局 下水道部長 衛藤 玄太見、下水道部次長 佐藤 敏明
下水道経営企画課長 衛藤 興憲、参事補 宮森 靖展、参事補 本多 隆司、参事補 甲斐 政治、主査 船石 文哉、主査 小野 勝己
下水道営業課長 藤野 宏輔、参事補 手嶋 純宏、参事補 池邊 知明
下水道建設課長 姫野 和長、参事 森本 真司、参事補 板井 志郎
次長兼下水道施設課長 佐藤 博、参事 三重野 辰巳、参事補 穴見 晋、参事補 油布 善文
(計18名)

1. 委員長選出

大分市公共下水道事業経営評価委員会設置要綱第5条第1項の規定により、委員長に川崎委員を選出しました。

2. 議事

(1) 会議の公開・非公開の決定

議事に先立ち、会議の公開・非公開の協議が行われました。今回の議題は「平成29年度公共下水道事業会計当初予算について」であり、公開することにより会議の円滑な審議等が損なわれるおそれはないと判断されたため、会議は公開で行われました。

(2) 平成29年度大分市公共下水道事業会計当初予算について

事務局から配布資料に基づいて説明を行いました。

○主な意見

【委員】 平成29年度の下水道使用料の改定については、前回まで本委員会で何度も意見を出し合い、値上げはやむを得ないという結論を出したわけですが、結果として先送りになりました。こうなった経過について、できる範囲で結構ですが、説明していただくことができますか。

【事務局】 中期経営計画の中で、収益的収支の黒字化と基準外繰入金を平成29年度にゼロにする目標を掲げておりましたが、これは29年度に使用料改定ができれば達成できるという目標でした。ところが、市民の負担増に対する政策的な判断によって、今回は値上げを見送ることになりました。29年度の基準外繰入金については、28年度と同額の4億1千3百万円を一般会計から繰り入れることになっております。

本来、企業会計の経営としては基準外繰入金を入れることは健全とは言えませんが、他都市の状況をみると基準外を入れている所も多く、また大分市の下水道は普及率が

まだ低く、独立採算を迫及することはまだ厳しく、現状では致し方ないという判断で今回は見送ることになったものです。今後は基準外繰入を継続しながら、ゆっくり健全化を進めようという方針です。

本来の計画では29年度に一気に黒字化し、累積赤字が27年度決算で19億3千万円ほどありますので、毎年度の黒字で累積赤字を消していこうというものでしたが、今回、健全化へのスピードを少し緩めるとい方向に転換を図ったということです。

また、30年度に水道局との組織統合があり、統合後に事務経費や人件費の削減も見込まれますことから、それらの効果も踏まえて、次期経営計画である経営戦略を立てようと考えているところです。

29年度予算については繰越金も確保できておりますので、現金収支としては問題ありませんが、収益的収支が赤字継続であり、企業会計としては未だ健全な状態には至っていないという状況です。

【委員】 市の方としては、下水道事業は繰入を続ければ経営を維持できるという判断をしたわけですね。

【事務局】 今後も基準外繰入を継続していただければ、事業の継続は可能ということです。独立採算制の中で基準外繰入は入れないことが本来の姿ですが、一気にゼロにするのは無理があるとの判断です。昨年12.8%程度の使用料改定案を提示しましたが、市民生活に影響が大きいとの判断により見送ったところです。

次の経営戦略の中で、使用料改定についてどのような形で計画に入れるか今後検討してまいります。

【委員】 今後値上げはせざるをえないけれども、何年以内にしないところといった状態になるというような見通しは、ここでは立っていないということですね。

【事務局】 これまでも中期経営計画の数値目標は、必ずしも計画通りではなかったわけですが、今後組織統合して再度収支計画を立てた時に、ここで使用料改定しないと厳しいというものであれば計画に入れることもあるでしょうが、現時点では未定です。

【委員】 分かりました。

【委員】 今のお話しは、健全化のスピードは少し鈍化してもよしとなったことと、組織統合することでコストダウンが図れるだろうから、ここで一旦様子を見て、一般会計から繰り入れて経営を続けましょうというお話だと解釈しました。決して私たちの議論が無駄になったわけではないということだと、私なりに納得しています。

お尋ねとしては当初予算の取組みの中で、水洗化率が目標よりも2.9ポイント低い数値となっておりますが、この差は実際には何世帯位になるのでしょうか。

【事務局】 昨年度末の試算では1%千軒くらいでした。2.9%ですので3千軒ほどになるろうかと思えます。目標に達しなかった要因は様々なものが考えられますが、住民意識として、公共ます設置同意の時点と接続工事時点での費用負担感のずれや、人口密度の比較的低い所まで工事が入っているため結果として水洗化人口が伸びていないこと、さらに人口減少による影響等も考えられますが、今後詳細に分析を進めてまいります。

【委員】 今までの都市部でのペースとは違ったペースでやっていかなければいけないところが、計画に入っていなかったということですね。

【事務局】 計画策定段階と実績との乖離が生じており、我々の努力工夫が第一ですが、次期経

営計画では、現状にあった目標値の見直しも検討する必要があると考えております。

【委員】 来年度、水道局と統合するにあたって、上下水道局経営戦略の策定は、上下水道局の上層部が検討していく予定なのでしょうか。

【事務局】 詳細は決定しておりませんが、現在下水道部分については外部委託により経営戦略の策定作業に着手しており、来年度統合後に上下水道事業を合体させ、上下水道局の経営戦略を策定する予定です。どういった組織で策定するかという詳細はまだ決まっておられません。

【委員】 問題だと思うのは接続率でして、我々の地区周辺では接続が8割はっていないのではないかという気がします。大きいビル、マンションが接続されていない所が結構あるように思います。建設年月日が古いと言えばそれまでですが、接続についての状況はどうなっているのでしょうか。

【事務局】 昨年度末時点での工事で接続していただいた割合は73%程度です。3年間を過ぎると、浄化槽がまだ新しいなどの理由で接続していただけない世帯もごございます。

【事務局】 接続依頼につきましては、4名の普及促進員を中心に個別訪問を行い、下水道の意義をご理解いただく中で接続促進を図っております。委員さんご指摘のマンション、アパート等の大口使用者の接続につきましては、環境に対する負荷も大きいものですから、特に重点的に依頼を行っております。また今年度より要綱を整備し、接続依頼から接続指導にシフトする形で取り組んでいるところです。

【委員】 強い形で指導ができるように例えば条例化するなどして、現状より接続率を上げていただきたいと思います。ビルは古くなると接続費用もかさみ、住民からのストップもかかると思いますので早期に取り組んでいただきたい。我々の地区ではアパートからの異臭の発生によるクレームが結構出ており、対応に苦慮しているところです。個別住宅でも借家の方にそういった苦情が出ることがあります。強い指導が望まれますので、お願いいたします。

【事務局】 異臭の問題につきましては、単独浄化槽やくみ取り便所の場合が多いと思いますので、接続指導対象の中では重点的に取り組んでまいります。

なお、先ほどの委員さんからのご質問にありました水洗化率の達成数値ですが、9千人ほどの水洗化により目標は達成できると考えております。

【委員】 2点ほどお伺いします。水洗化率の目標が達成された場合に収支がどの程度改善できるのかというシミュレーションをされたことがあるかどうかは1点目。もうひとつは企業債の償還の問題で、経営健全化への取組は種々されていますが、限界があるのではないかと。支出に占める起債償還の割合の大きさから見て、今掲げられている取り組みだけで果たして十分なのかと思われまます。その点はいかがでしょうか。

【事務局】 1点目のご質問ですが、仮に9千人の接続で目標達成できるとすると、約1億2千万円の増収になります。

【委員】 その時に収支はどれ位改善できますか。

【事務局】 現状に単純に置き換えれば、この赤字の8千万円は消えます。

【委員】 可能ならばそういった数字も出しながら提案の仕方を少し工夫していただけるといいのではないかと考えます。そうした時にこの経営状況の「積極的な取組みを進める」ということの整合性が取れるのではないかと考えますので、ご検討いただけたら

と思います。